



歴史と伝統がつなぐ山形の『最上紅花』が

日本農業遺産に認定



町内各地に広がる紅花畑。生産者の手によって、このランドスケープ（景観）が変わらず継承されてきた



1_小さいころから紅花に親しんでもらうことで、伝統がつながっていく 2_古来から変わらぬ手作業での紅餅加工 3_紅花を活用した製品などで、地域経済の活性化を図る 4_紅餅生産と結びついてきた「紅」文化

農 林水産省が平成28年に創設した制度「日本農業遺産」に、2月15日、白鷹町を含む最上川流域4市4町が取り組んでいる「紅花の生産や加工システム」が認定されました。

世界でも稀有なシステム

白鷹町が生産日本一を誇る紅花。その生産者は、最上川流域の肥沃な土壌と朝霧が出る気象条件を活用しつつ、異なる作物との輪作（一定の期間を置いて周期的に栽培する農法）や有機質資材の施用のために紅花を栽培し、さらに収穫した花を染色用の素材となる「紅餅」に加工する技術を伝承してきました。

この「生産から加工まで」の一貫したシステムは、世界的にも稀有（非常に珍しい）な農業

『花』〜日本で唯一、世界でも稀有な紅花生産・染色加工システム」とし、山形市・米沢市・酒田市・天童市・山辺町・中山町・河北町そして白鷹町の4市4町を「山形県最上川流域」エリアと定め、昨年6月20日に二度目の申請。書類審査、現地調査、プレゼンテーションを経て、このたび県内初となる認定に至りました。

「認定」から「認知」へ

今回の日本農業遺産の認定を契機に、町では地域の自信と誇りを徐々に育んでいき、紅花生産や加工技術を後世に受け継いでいくことや、より多方面にわたる紅花の活用による需要拡大などに取り組んでいきます。そして、紅花の主産地として「生産」と「観光」の両面を推進し、さらに認知度を上げて地域の活性化につなげていきたいと思います。

紅花生産日本一「日本の紅（あか）」をつくる町「白鷹町」。私たちの町は今、日本農業遺産の認定をきっかけに、日本中から注目されています。



システムであり、室町時代末期以来約450年の歴史と伝統を有する、6次産業化の先駆けとなるものでもあります。

これを踏まえ、平成28年9月28日、白鷹町も構成市町として参画している山形県紅花振興協議会（吉村美栄子会長）が設立され、同年に農林水産省へ日本農業遺産への申請書を提出。しかし、その際には認定が見送られる結果となりました。

その後、認定基準に満たないとされた「生物多様性」や「土壌肥沃度」などの点について、白鷹町「日本の紅（あか）」をつくる町」連携推進本部（横澤浩 本部長）が調査・分析を実施。その結果を盛り込んだうえで、現在まで取り組んでいる紅花の生産や加工システムを「歴史と伝統がつなぐ山形の『最上紅

どんなメリットがあるの？

地域固有の農林水産業の価値が認められることで、地域の自信と誇りを醸成するとともに、農林水産物のブランド化や観光誘客致を通じた地域経済の活性化が期待されます。また、認定地域間の交流など、地域の枠を超えた取組も望めます。

日本農業遺産とは？

社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった農林水産業システムのうち、特に重要性を有するものを農林水産大臣が認定する制度です。



詳しくは農林水産省ホームページをチェック！

